

---

# 平成22年（2010年）第3回 箕面市国民健康保険運営協議会 参考資料

～ 必要となる医療費に応じた  
保険料の計算を行うことの重要性 ～

---

2010年11月  
市民部 国保年金課

# 【目次】

## I. 箕面市の国民健康保険の現状

- 1.平成22年度から平成24年度の収支の見込み（試算）
- 2.一人あたり医療費の伸びの状況
- 3.一般会計からのルール分の繰り出し状況

## II. 箕面市の国民健康保険の特徴

- 4.市民税、後期保険料、国保保険料と国保加入者の所得の一人あたり金額の比較
- 5.モデル世帯の保険料の経年比較
- 6.一人あたり保険料の近隣市との比較
- 7.累積赤字・法定外繰入の近隣市との比較
- 8.法定外繰入前の単年度赤字の近隣市との比較
- 9.法定外繰入額の近隣市との比較

## III. 平成15年度から平成21年度までのシミュレーション

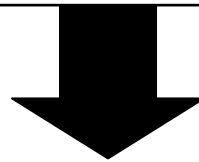
- 10.平成16年度以降に料率の改定を実施していた場合の一人あたり保険料（試算）
- 11.平成16年度以降に料率の改定を実施していた場合の単年度赤字の状況（試算）
- 12.平成16年度以降に料率の改定を実施していた場合の累積赤字の状況（試算）

## IV. 保険料と所得の関係

- 13.大阪府内の平成22年度の一人あたり、世帯あたりの所得の状況
- 14.大阪府内の保険料と所得の状況（平成21年度実態調査から）
- 15.この資料から見えてきたもの

## はじめに

- ・本市の国民健康保険の事業運営について、平成20年度の本協議会における慎重審議の結果、保険料は「市独自の保険料率の固定を廃止し、国標準の保険料計算にする」とされました。
- ・ただし、被保険者の急激な負担増に配慮し、保険料の増額は3億円とするが2ヶ年をかけての増額とすること、二段階料率の廃止は平成22年度からとすることとされました。
- ・また、平成23年度以降の保険料については、医療費の動向を踏まえて改めて検討することとされています。



答申を受けて、市は平成21年度および平成22年度の国保事業運営を行っています。

- ・今後の保険料率を検討するにあたり、保険料率を固定してきた期間も含め、これまでの本市の国保財政を検証しました。
- ・詳細は各資料に記述していますが、仮に保険料率を各年度ごとに変更していた場合について各年度の収支を試算して現状との比較を行いました。
- ・今後の、国民健康保険運営協議会での審議の参考資料としてご利用ください。

# 1. 平成22年度から24年度の収支見込み（試算）

- 仮に平成22年度の保険料率に固定して、平成22年度から平成24年度までの収支の見込みを試算しました。
- 保険料の収納率を3つのパターンにて試算しました。
  - （表1）平成21年度と同じ88.86%の収納率
  - （表2）平成20年度運協時に目標とした95%の収納率
  - （表3）大阪府が策定する広域化等支援方針にて定められる予定の平成21年度の収納率を基準として毎年度+0.8%収納率を上げる
- 試算の結果、全てのパターンにおいて（たとえ、目標としている95%の収納率を毎年度達成したとしても）各年度ともに一般会計から4億円の繰入後も単年度赤字が生じる結果となりました。

（表1）平成21年度の保険料収納率88.86%が続いたとして計算（千円）

	平成21年度決算	平成22年度決算見込み	平成23年度決算見込み	平成24年度決算見込み
歳入	12,099,845	12,907,865	13,699,276	14,398,786
歳出	15,089,399	16,217,174	17,566,162	19,234,213
単年度赤字	-299,713	-319,754	-557,577	-568,541
累積赤字	-2,989,554	-3,309,309	-3,866,886	-4,835,427
保険料の収納率	88.86%	88.86%	88.86%	88.86%

## 試算結果の特徴

- 試算の中で、最も赤字が大きい結果となりました。
- 平成24年度末時点で累積赤字が50億円近くになります。

（表2）平成20年度の運協時の目標収納率95%で計算（千円）

	平成21年度決算	平成22年度決算見込み	平成23年度決算見込み	平成24年度決算見込み
歳入	12,099,845	13,127,642	13,919,053	14,618,563
歳出	15,089,399	16,217,174	17,346,385	18,794,659
単年度赤字	-299,713	-99,977	-337,800	-348,764
累積赤字	-2,989,554	-3,089,532	-3,427,332	-4,176,096
保険料の収納率	88.86%	95.00%	95.00%	95.00%

- 試算の中で、最も赤字が小さい結果となりました。
- しかし、平成24年度末時点で累積赤字が42億円近くになります。

（表3）大阪府広域化支援方針の収納率（平成21年度を基準として毎年度+0.8%）（千円）

	平成21年度決算	平成22年度決算見込み	平成23年度決算見込み	平成24年度決算見込み
歳入	12,099,845	12,940,485	13,759,533	14,486,361
歳出	15,089,399	16,217,174	17,533,542	19,141,336
単年度赤字	-299,713	-287,134	-497,320	-480,966
累積赤字	-2,989,554	-3,276,689	-3,774,009	-4,654,975
保険料の収納率	88.86%	89.66%	90.46%	91.26%

- 試算の中で、赤字が中程度の結果となりました。
- しかし、平成24年度末時点で累積赤字が47億円近くになります。

# 2. 一人あたりの医療費の伸びの状況 (近隣2市との比較を中心に分析しました)

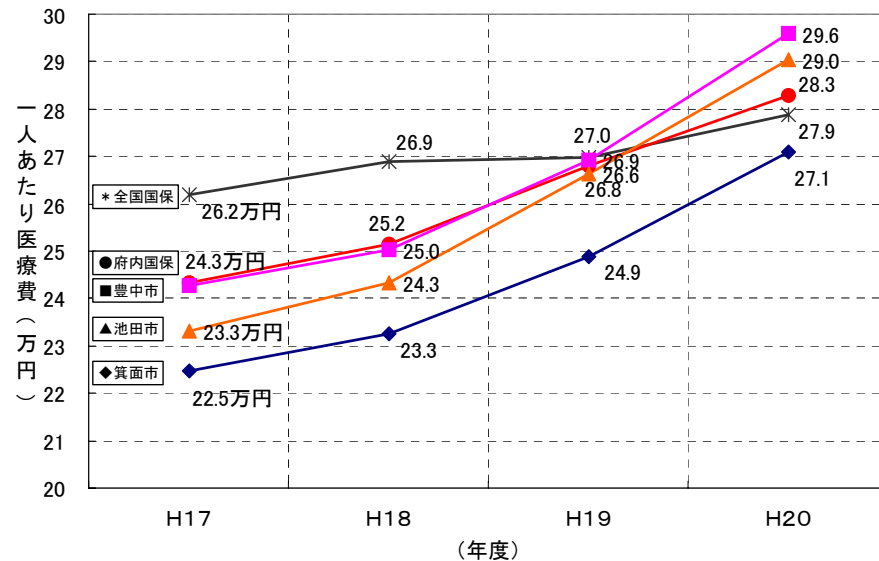
(グラフ1から)

- ・医療費で見ると平成17年度には、箕面市国保と全国国保の差が3.7万円ありましたが、平成20年度では、0.8万円と縮まっています。
- ・箕面市国保は、他の比較対象より金額が少ないですが、平成17年度と平成20年度の全国国保の医療費の伸び1.7万円に対して、箕面市国保は4.6万円の伸びとなっています。

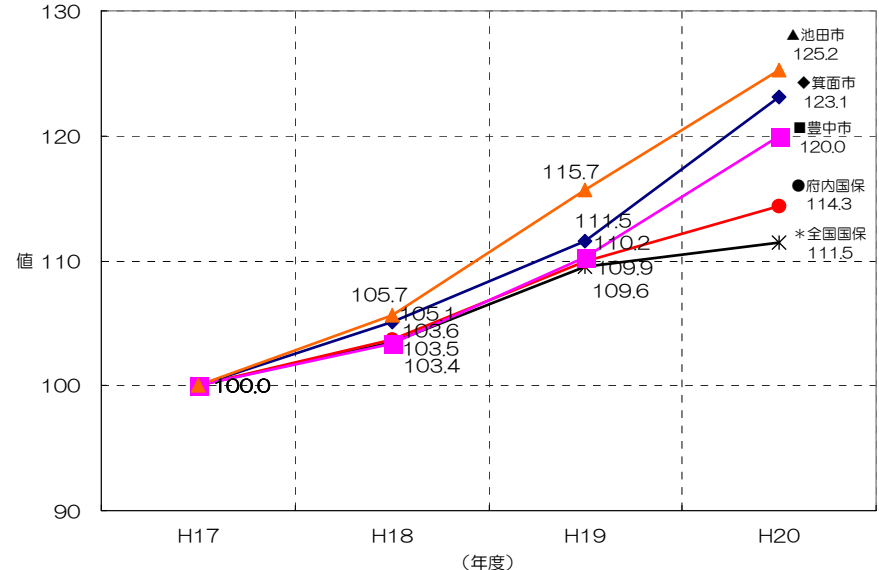
(グラフ2から)

- ・平成17年度を100として平成20年度を見ると、「全国国保」が111.5、「府内国保」が114.3、「豊中市国保」が120.0、「池田市国保」が125.2、「箕面市国保」が123.1となっています。
- ・豊中市、池田市、箕面市ともに、全国国保と府内国保より医療費の伸びの値が大きいです。

(グラフ1) 国保一人あたり医療費の推移(療養費含まず)

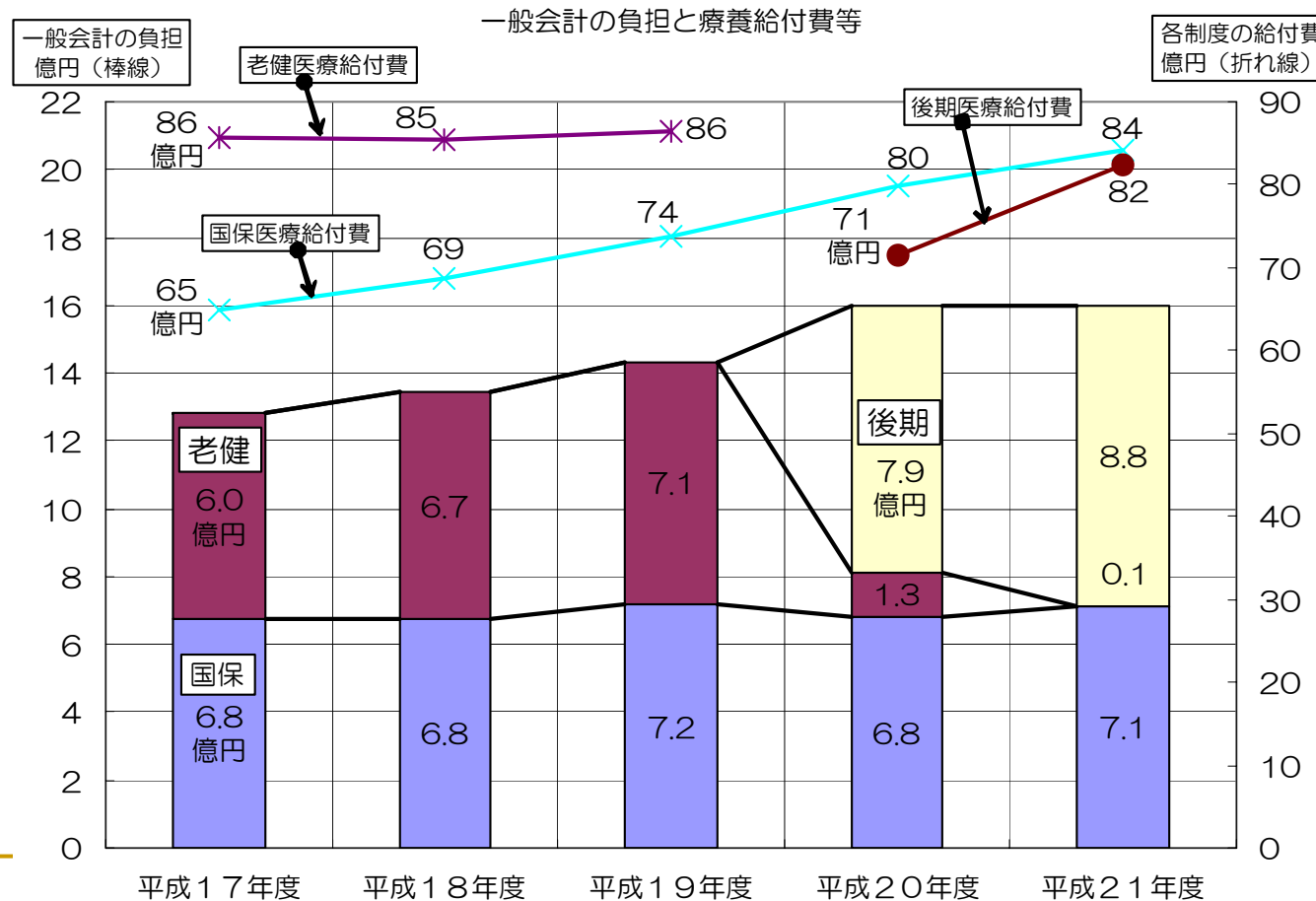


(グラフ2) 平成17年度を100としたときの各年度の値



# 3. 一般会計からのルール分の繰り出し状況

・ 給付費の増加に併せて、一般会計からのルール分の繰り出しも増えています

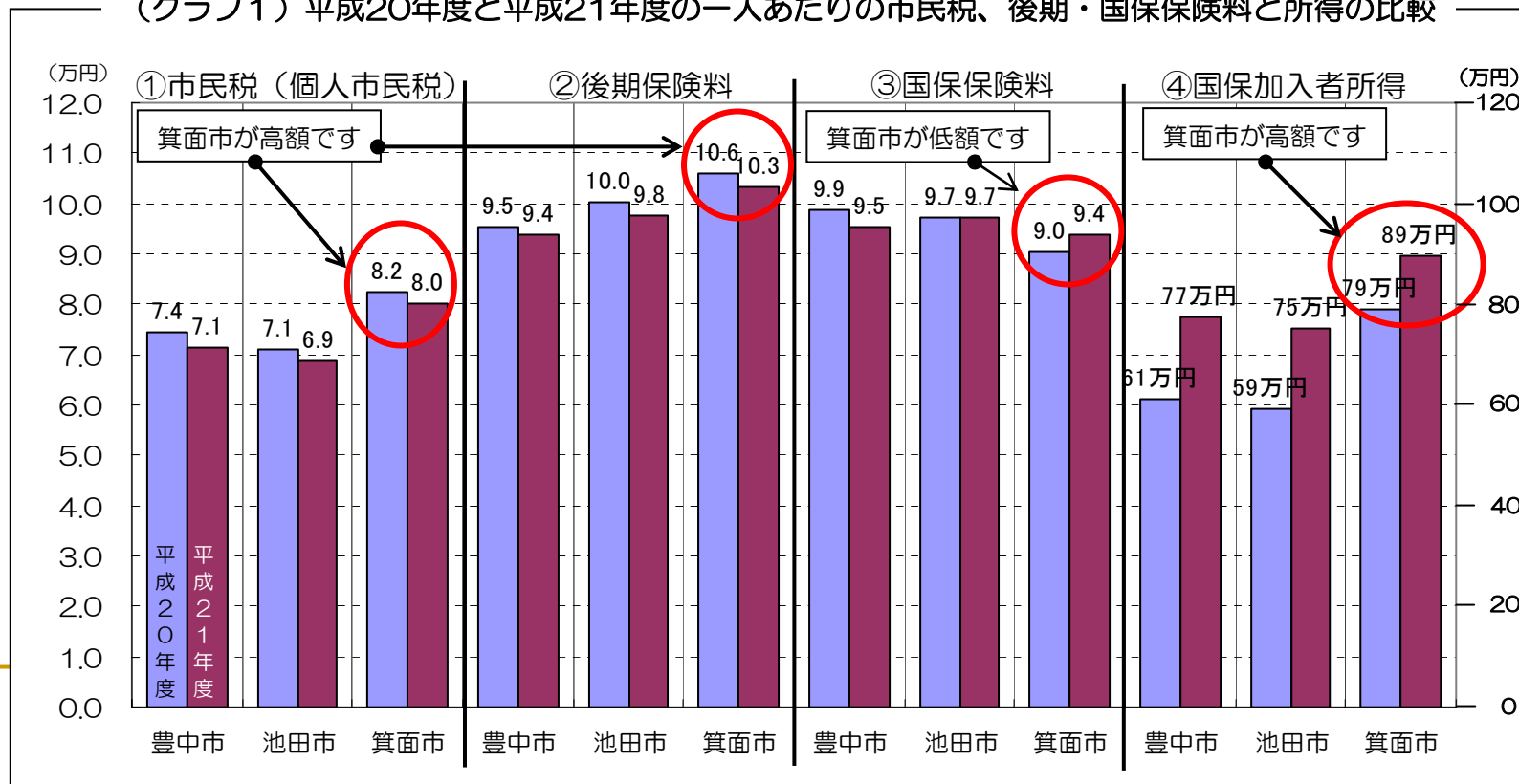


※後期分は、広域連合への負担金を含む

# 4.市民税、後期保険料、国保保険料と 国保加入者所得の一人あたり金額の比較

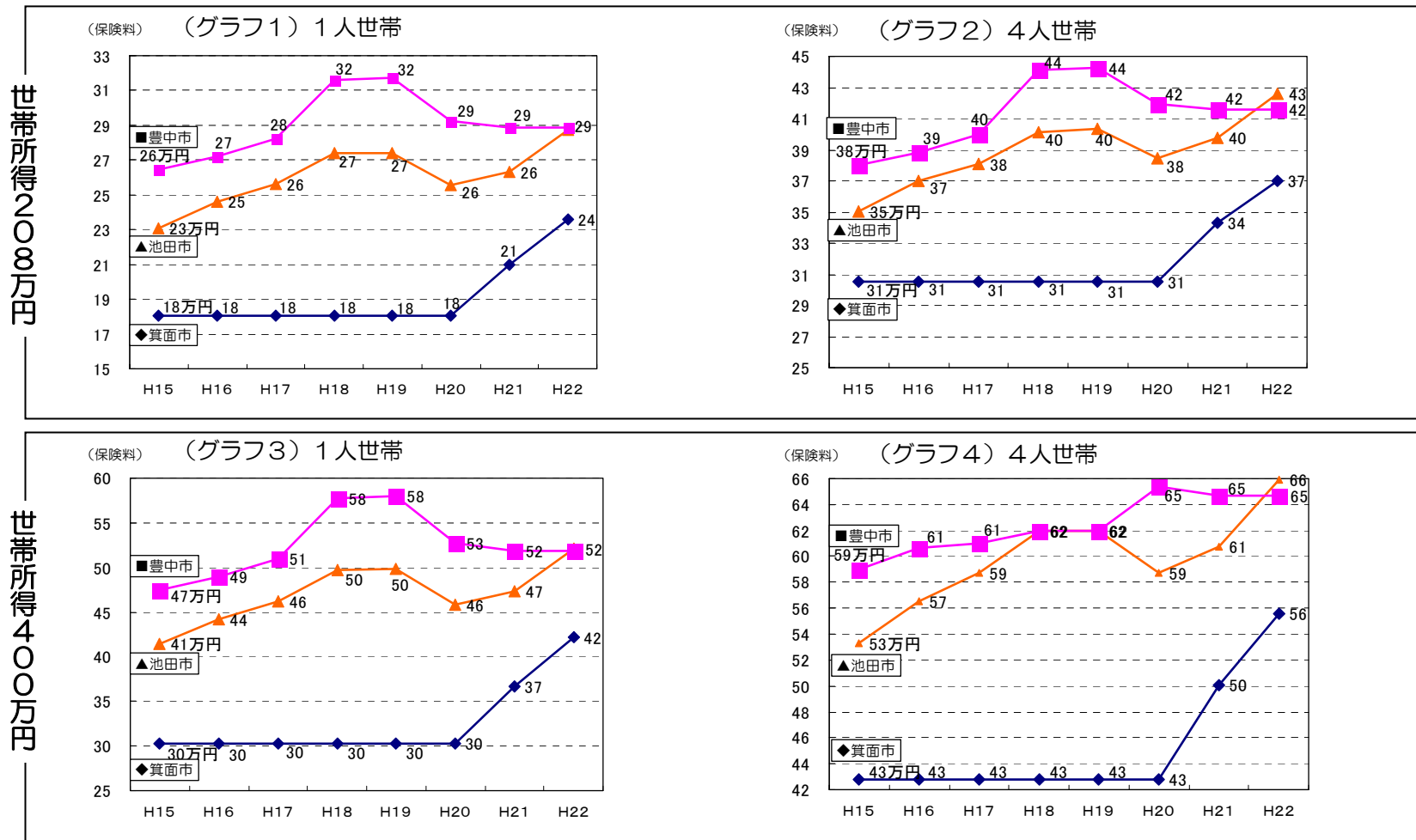
- ①近隣市と比較すると一人あたり市民税額は箕面市が高額です。このことから、箕面市の所得水準が高いことが分かります。
- ②後期高齢者医療制度の保険料率は府内同一料率で計算されますが、箕面市の保険料が近隣市を上回っているのは被保険者の所得水準が高いためです
- ③箕面市の被保険者の所得水準が高いため国保の保険料が同額であった場合は、箕面市の保険料率は他市より低いこととなります。
- ④国保加入者一人あたりの所得は、箕面市が高額です。

(グラフ1) 平成20年度と平成21年度の一人あたりの市民税、後期・国保保険料と所得の比較



# 5.モデル世帯の保険料の経年比較

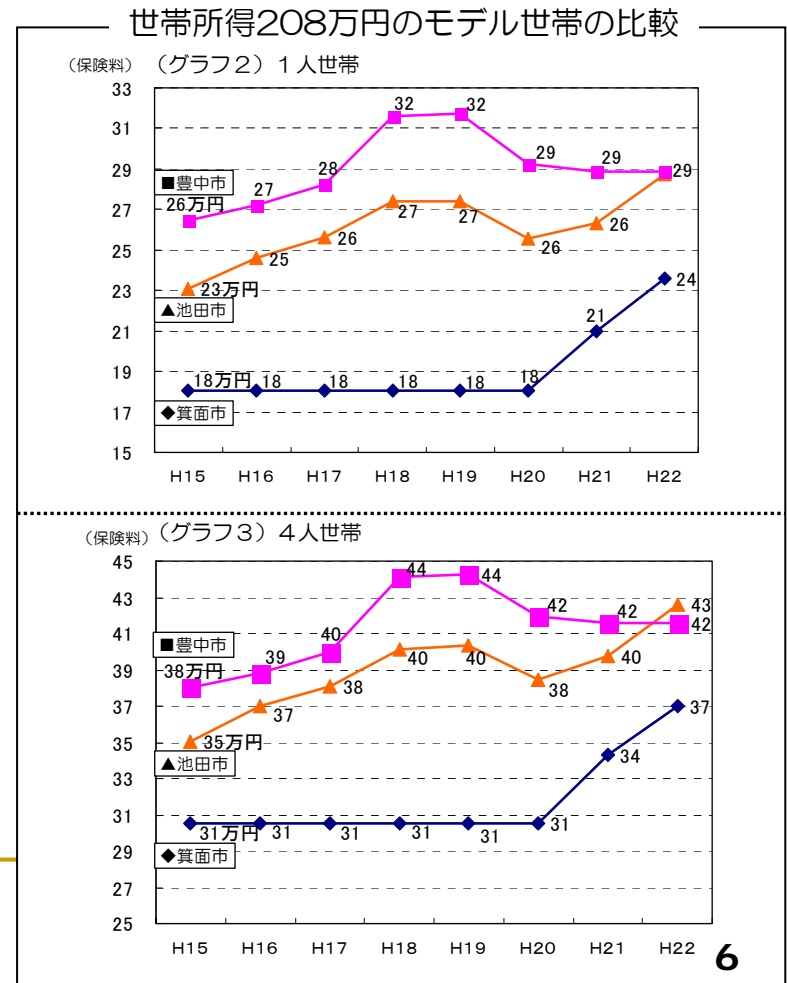
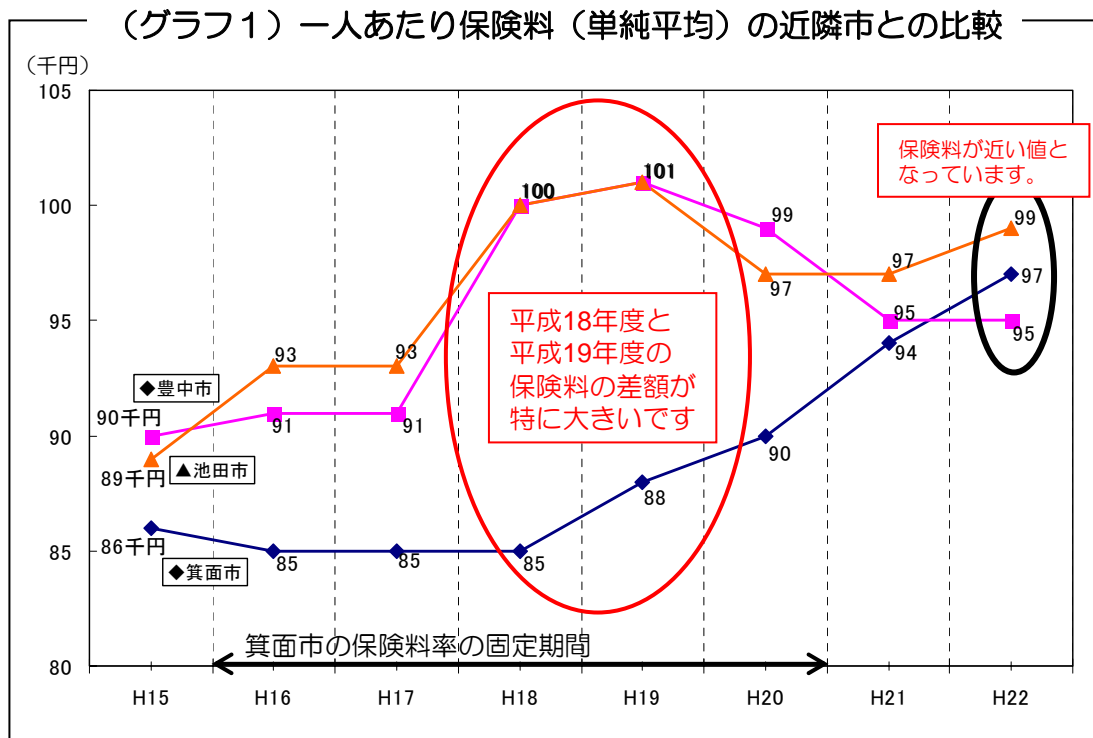
- モデル世帯で比較すると同じ世帯構成・同一所得であれば、本市の保険料が低額であることが分かります。
- 本市の保険料は平成21年度からの料率改定により、平成20年度以前より上がっていますが、それでも他市よりも確実に5千円から1万円低額であることが分かります。





# 6.一人あたり保険料の近隣市との比較

- 保険料の改定状況を比較しました。
- 豊中市と池田市が、毎年度保険料を改定してきたのに対して、本市は保険料改定を行って来なかったことが分かります。
- この結果、単年度赤字の解消ができず累積赤字を積んできました。
- 平成22年度は3市とも保険料の総額を被保険者数で割った単純平均の一人あたり保険料が近い値となっています。しかし、世帯所得208万円のモデル世帯で比較しますと本市の保険料が低額であることが分かります。



# 7. 累積赤字・法定外繰入の近隣市との比較

法定外繰入の「あり・なし」による累積赤字を被保険者一人あたりに換算した比較です。

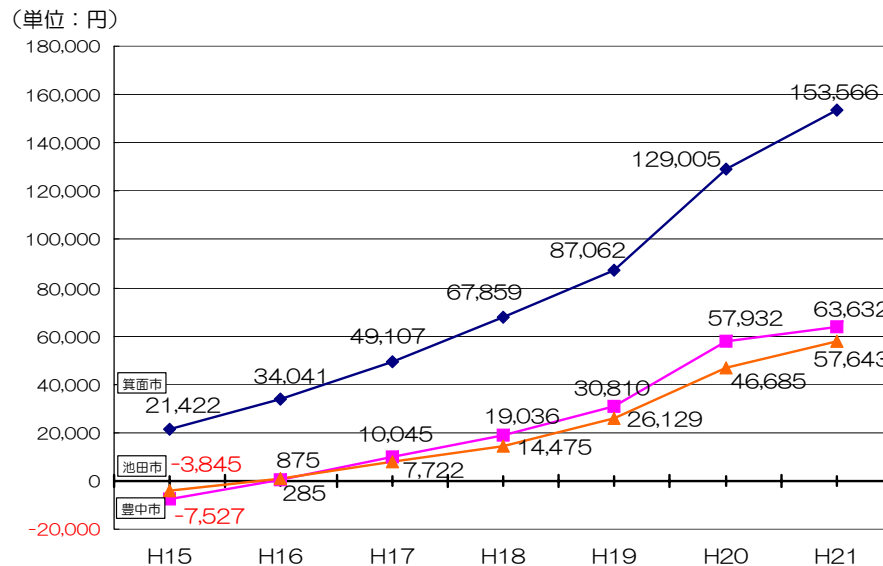
(グラフ1から)

- ・全ての年度において、本市の被保険者一人あたり累積赤字額が高額です。
- ・本市は、平成21年度時点で一人あたり累積赤字額が池田市と豊中市の3倍近い額となっています。

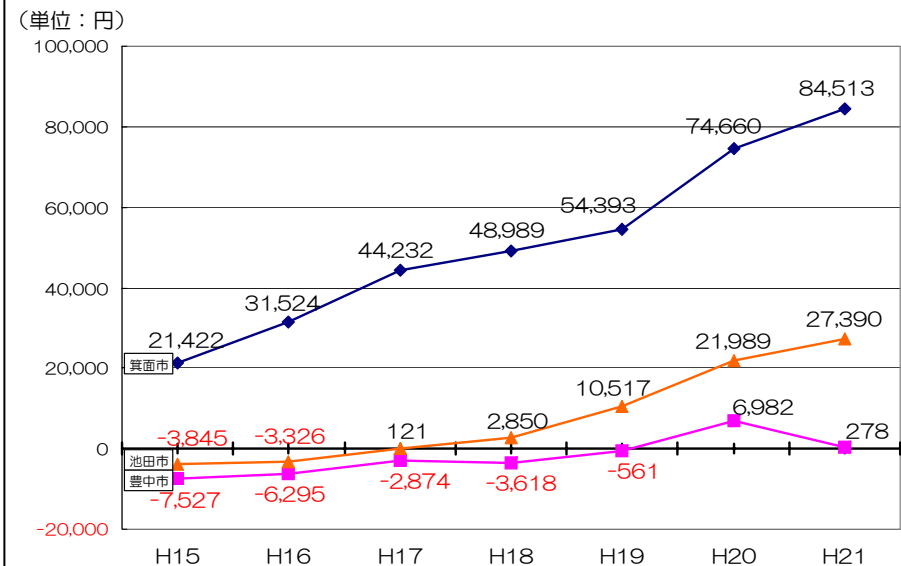
(グラフ2から)

- ・法定外の繰入実施後でも、全ての年度において本市の被保険者一人あたり累積赤字額が高額です。
- ・本市は、平成21年度時点で池田市の約3倍・豊中市の約300倍の被保険者一人あたりの累積赤字を抱えています。

(グラフ1) 法定外繰入なしの一人あたり累積赤字額

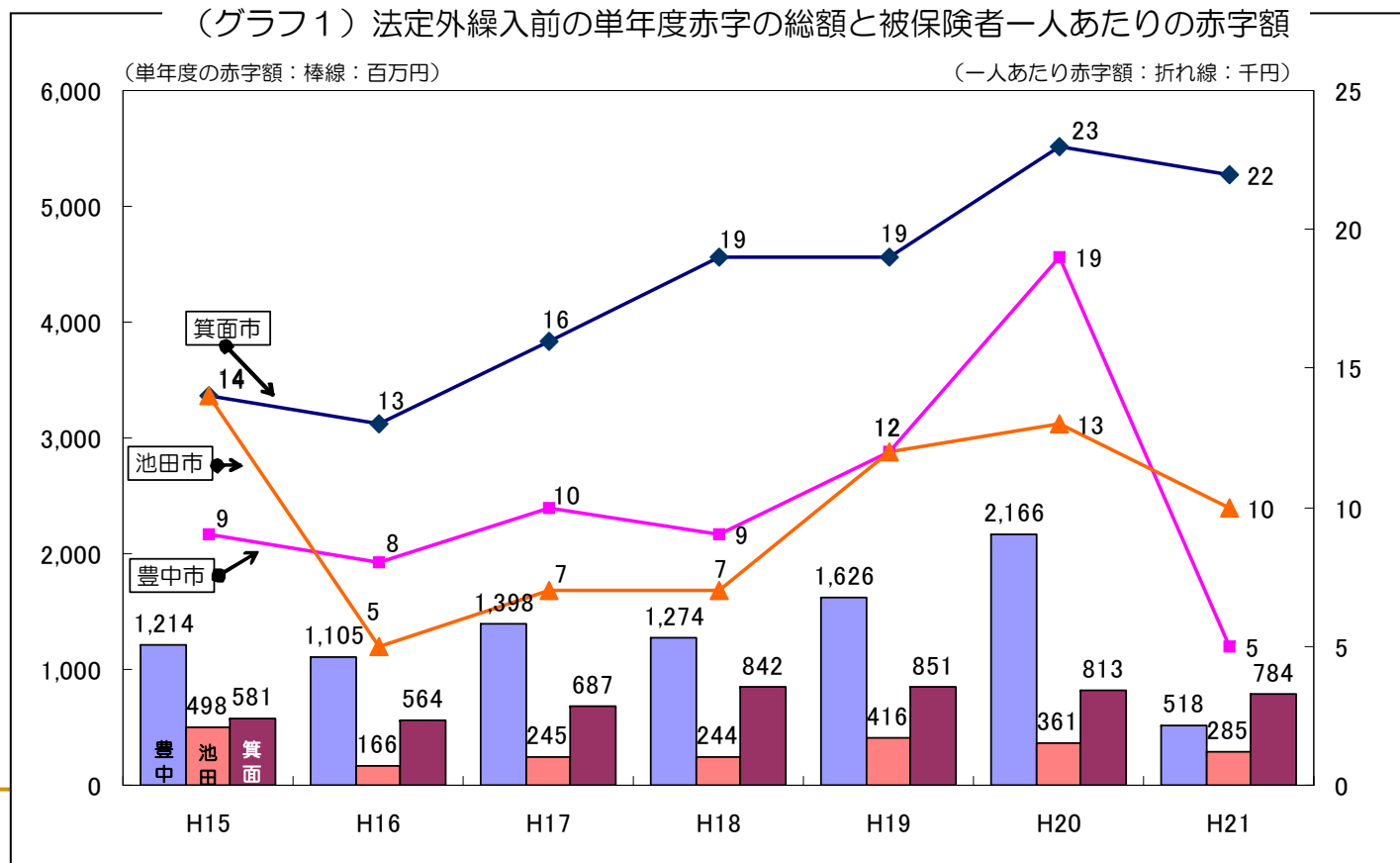


(グラフ2) 法定外繰入ありの一人あたり累積赤字額



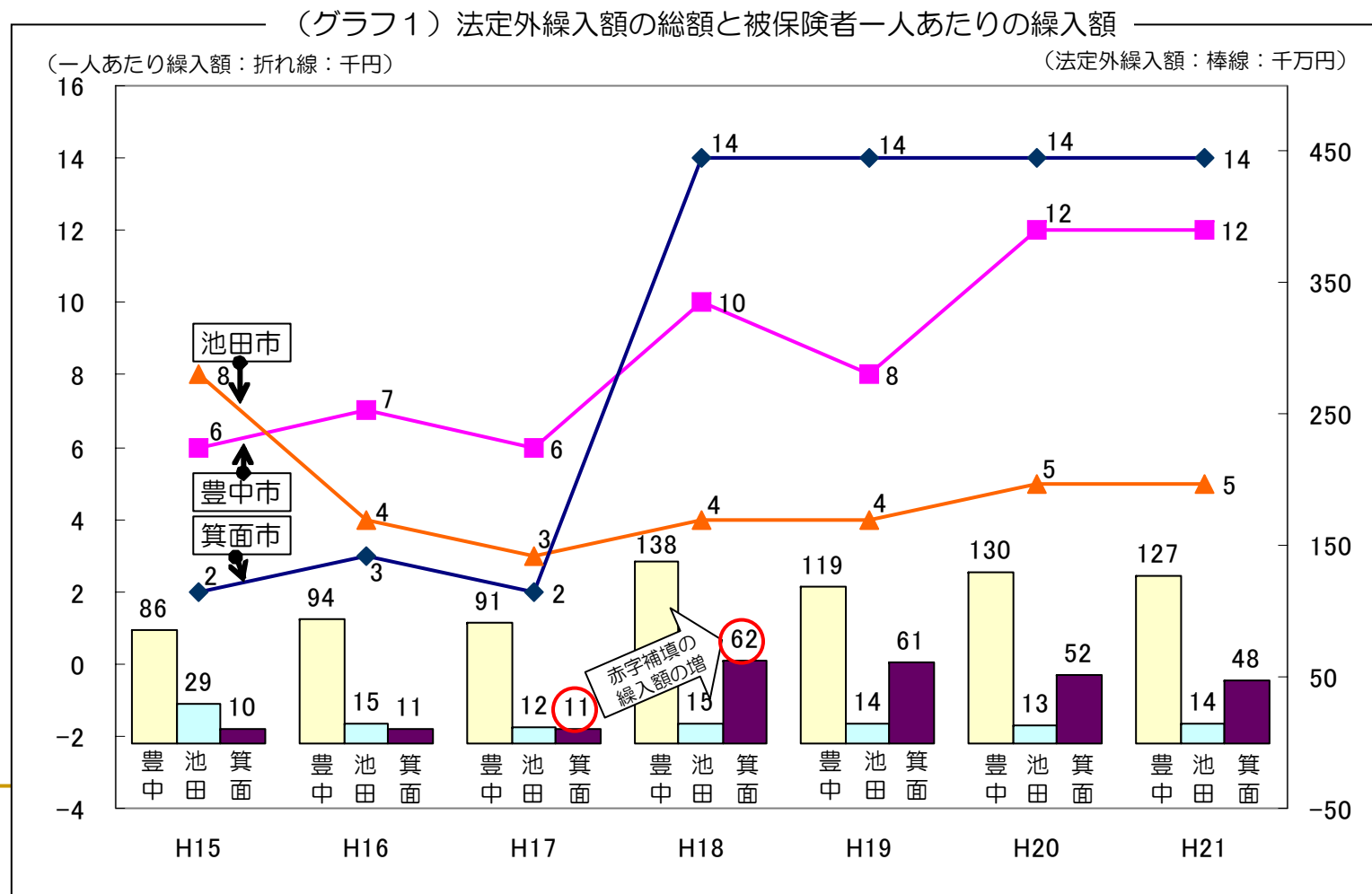
# 8.法定外繰入前の単年度赤字の近隣市との比較

- 平成15年度から平成21年度の全ての期間において、本市の被保険者一人あたりの単年度赤字額が大きいです。（折れ線グラフ）
- 単年度の赤字を保険料だけで賄おうとすれば、一人あたり2万円以上の保険料が必要となります。
- 平成21年度は約2億円の保険料改定をしましたが、一人あたり赤字額は千円しか下がりませんでした。これは、保険料の改定などで一人あたりの歳入が平成20年度より16千円増加しましたが、医療費の増加により一人あたりの歳出が15千円増加したためです。



# 9.法定外の繰入額の近隣市との比較

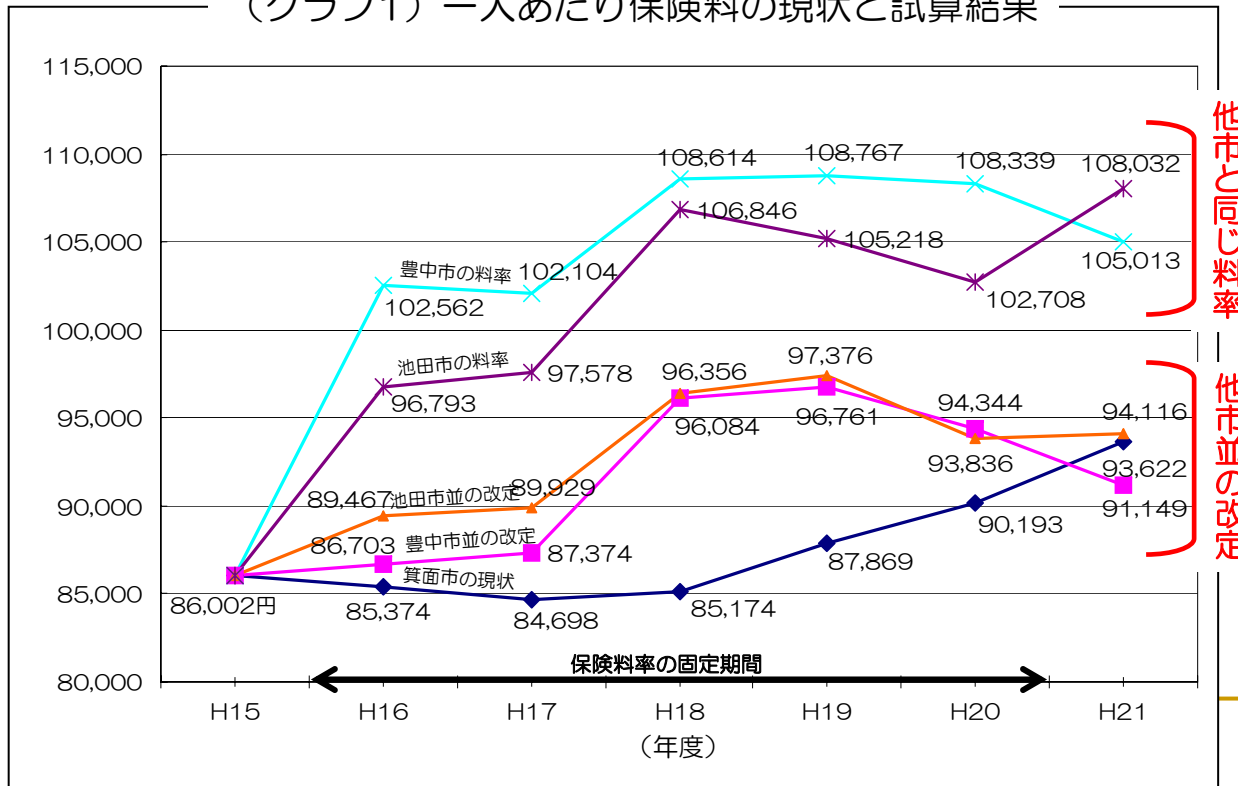
- 本市は、平成18年度から赤字補填の繰入をしているため繰入額が増えています。
- 赤字補填を実施した18年度以降は、本市が被保険者一人あたりの繰入額で一番の状況です。このことから近隣市との比較では、本市が国保財政を一般会計（税）を投入して支えている状況が分かります。



# 10.平成16年度以降に料率の改定を実施していた場合の一人あたり保険料（試算）

- 平成16年度以降、他市並に保険料をあげていた場合の2種類の試算を行いました。
  - 平成15年度の保険料を基準として、本市の一人あたり保険料を他市の上昇率で計算した試算（池田市並改定・豊中市並改定）
  - 平成16年度以降の本市の保険料を他市の保険料率で計算した試算（池田市の料率・豊中市の料率）
- 他市の上昇率で試算した結果は、現在の本市の保険料を上回る結果となりました。
- さらに、他市の保険料率を用いていた場合の試算結果は、現在の本市の保険料を相当上回ります。本市の保険料がいかに低いかが分かります。

（グラフ1）一人あたり保険料の現状と試算結果



各データの説明

**（箕面市の現状）**

現在の箕面市の状況です。

**（豊中市並の改定）**

・一人あたり保険料を豊中市と同じ率で引き上げたとして試算した結果です

**（池田市並の改定）**

・一人あたり保険料を池田市と同じ率で引き上げたとして試算した結果です

**（池田市の料率）**

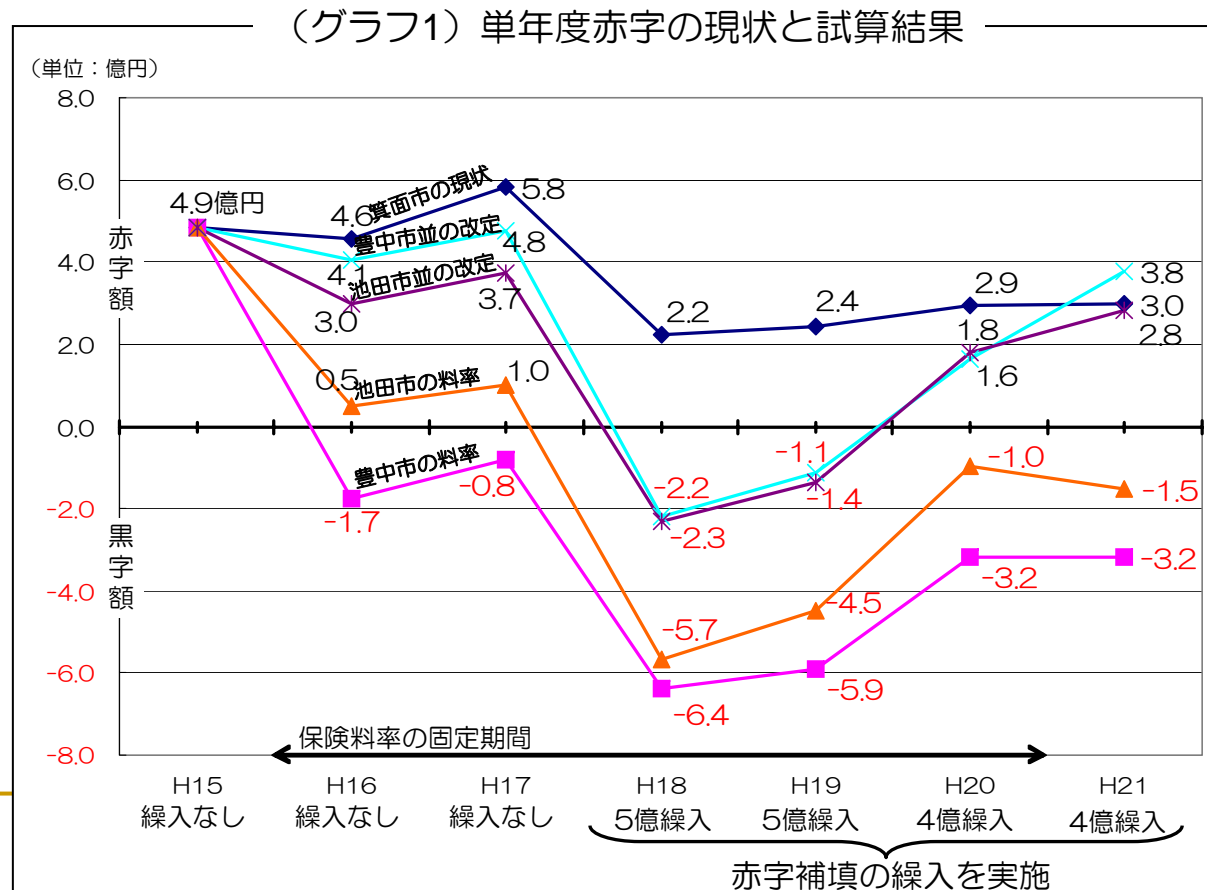
・池田市の保険料率で箕面市の保険料を賦課したとして試算した結果です

**（豊中市の料率）**

・豊中市の保険料率で箕面市の保険料を賦課したとして試算した結果です

# 11.平成16年度以降に料率の改定を実施していた場合の単年度赤字の状況（試算）

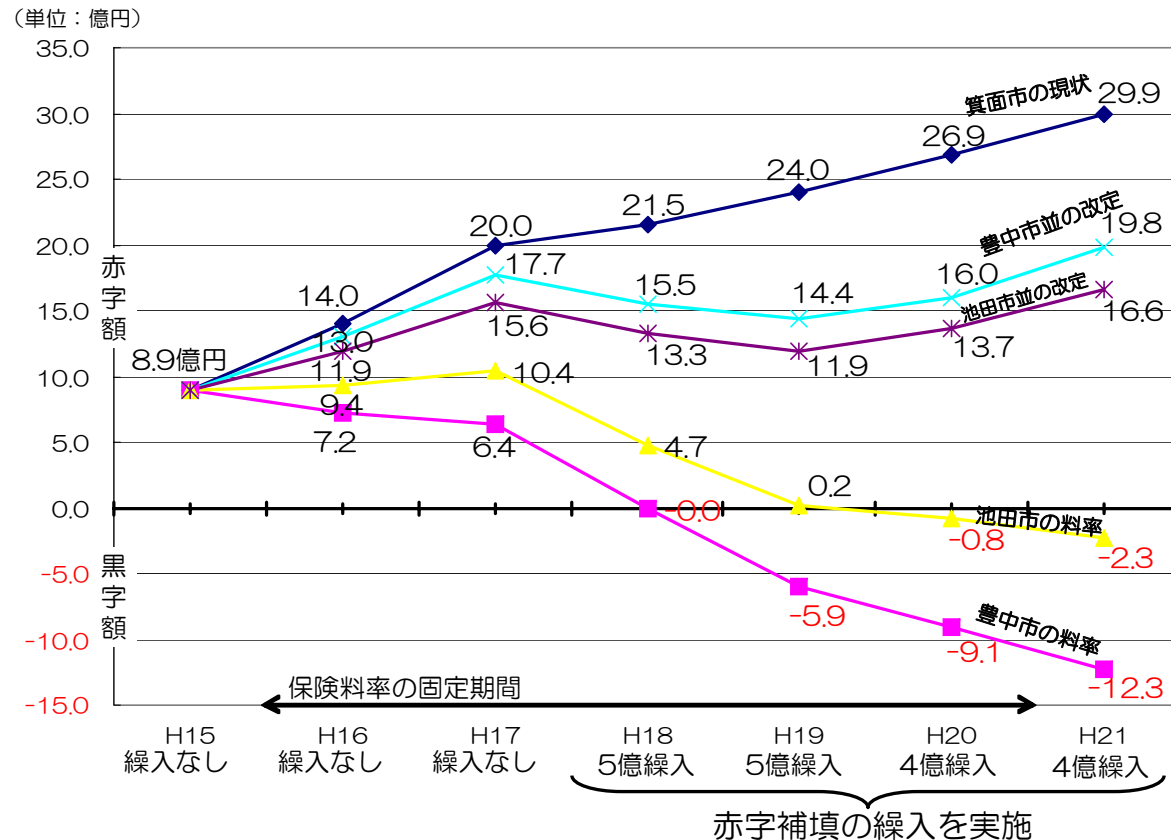
- 平成15年度以降の単年度赤字について、スライド10と同様の試算を行いました。
- 平成18年度以降は、赤字補填の繰入後の単年度赤字額となっています。
- 全ての試算結果において、平成16年度から平成20年度までは現状より単年度赤字が小さい結果となりました。
- 特に、平成16年度以降豊中市の保険料率と同じであった場合は、全ての年度において単年度赤字が生じない試算結果となりました。



# 12.平成16年度以降に料率の改定を実施していた場合の累積赤字の状況（試算）

- ・試算結果の全てにおいて、現状より累積赤字が少ない結果となりました。
- ・特に豊中市または池田市の保険料率と同じであった場合は、平成20年度末で累積赤字が解消できる試算結果となりました。

(グラフ1) 累積赤字の現状と試算結果



累積赤字の試算結果

現在の累積赤字は、29.9億円です。

(豊中市並の改定)

累積赤字の試算結果： 19.8億円  
現状との差額： ▲10.1億円

(池田市並の改定)

累積赤字の試算結果： 16.6億円  
現状との差額： ▲13.3億円

(池田市の料率)

累積赤字の試算結果： 2.3億円の黒字  
現状との差額： 32.2億円

(豊中市の料率)

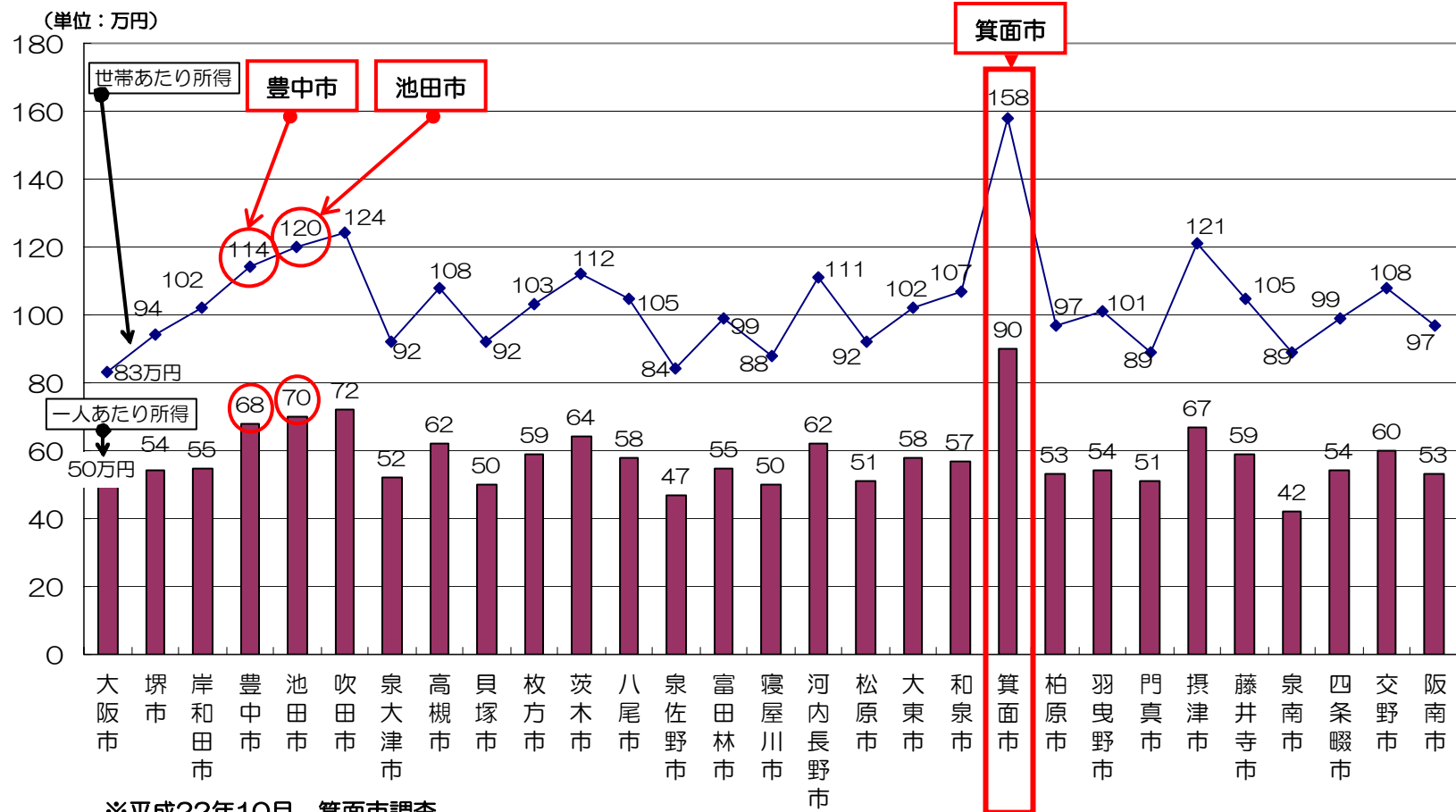
累積赤字の試算結果： 12.3億円の黒字  
現状との差額： 42.2億円

豊中市または池田市の保険料率と同じであった場合は、累積赤字を平成20年度で解消できる結果となりました。



# 13.平成22年度の一人あたり、世帯あたりの所得の状況

- ・平成22年度の国保加入者にかかる所得の状況を府内33市に照会しました。（平成22年9月末の時点）
- ・回答のあった29市で比較すると一人あたり所得、世帯あたり所得ともに箕面市の被保険者が一番高いです。
- ・箕面市の被保険者の所得水準が高いため、保険料率が同一であれば箕面市の被保険者の保険料は他市と比べて高額となります。



※平成22年10月 箕面市調査



# 14.保険料と所得の状況（平成21年度実態調査から）

- ・一人あたり保険料の単純平均では、（表1）のとおり保険料の高い順で本市は府内25番目の保険料でした。
- ・一人あたりの所得では、（表2）のとおり所得の多い順で本市は府内1番の所得でした。
- ・一人あたり所得に占める一人あたり保険料の割合では、（表3）のとおり本市が一番低いです。

（表1）一人あたり保険料  
（単純平均）の順

	保険者名	一人あたり 保険料（円）
1	大阪狭山市	106,486
2	寝屋川市	105,052
3	藤井寺市	103,664
4	堺市	99,684
5	東大阪市	98,996
6	摂津市	98,870
7	豊中市	98,625
8	八尾市	97,887
9	阪南市	97,257
10	茨木市	97,217
11	貝塚市	97,088
12	池田市	97,038
13	河内長野市	96,787
14	富田林市	95,772
15	柏原市	94,635
16	和泉市	93,697
17	高石市	93,621
18	松原市	92,036
19	交野市	91,820
20	四條畷市	91,113
21	大東市	90,477
22	泉大津市	90,432
23	岸和田市	89,199
24	羽曳野市	88,993
25	箕面市	88,406
26	泉佐野市	87,716
27	高槻市	87,507
28	吹田市	87,474
29	枚方市	86,850
30	門真市	86,836
31	守口市	86,678
32	大阪市	85,114
33	泉南市	82,651

（表2）一人あたり所得の  
多い順

	保険者名	一人あたり 所得（円）
1	箕面市	896,085
2	吹田市	798,261
3	豊中市	773,794
4	茨木市	772,000
5	池田市	751,896
6	摂津市	712,406
7	羽曳野市	711,445
8	交野市	701,093
9	大阪狭山市	689,499
10	河内長野市	680,111
11	高槻市	677,322
12	枚方市	629,348
13	八尾市	621,986
14	藤井寺市	603,072
15	堺市	591,599
16	柏原市	590,852
17	東大阪市	589,738
18	富田林市	583,908
19	岸和田市	583,566
20	四條畷市	581,505
21	高石市	576,946
22	泉大津市	565,938
23	大東市	559,281
24	和泉市	553,768
25	阪南市	551,758
26	松原市	548,285
27	寝屋川市	534,609
28	門真市	529,140
29	貝塚市	526,830
30	大阪市	525,020
31	守口市	519,216
32	泉佐野市	484,022
33	泉南市	412,857

（表3）一人あたり所得に  
占める保険料の割合の順

	保険者名	所得に占める 保険料の負担 割合
1	泉南市	20.02%
2	寝屋川市	19.65%
3	貝塚市	18.43%
4	泉佐野市	18.12%
5	阪南市	17.63%
6	藤井寺市	17.19%
7	和泉市	16.92%
8	堺市	16.85%
9	東大阪市	16.79%
10	松原市	16.79%
11	守口市	16.69%
12	門真市	16.41%
13	富田林市	16.40%
14	高石市	16.23%
15	大阪市	16.21%
16	大東市	16.18%
17	柏原市	16.02%
18	泉大津市	15.98%
19	八尾市	15.74%
20	四條畷市	15.67%
21	岸和田市	15.29%
22	大阪狭山市	15.22%
23	河内長野市	14.23%
24	摂津市	13.88%
25	枚方市	13.80%
26	交野市	13.10%
27	高槻市	12.92%
28	池田市	12.91%
29	豊中市	12.75%
30	茨木市	12.59%
31	羽曳野市	12.51%
32	吹田市	10.96%
33	箕面市	9.87%

出典：平成21年度国民健康保険実態調査（平成21年9月30日調査基準日）から

## 15.この資料から見えてきたもの

### I.国保加入者の所得の状況

- ・スライド13及び14のとおり本市国保の被保険者の所得は高いです。

### II.現在の一人あたり保険料の状況

- ・現在の本市国保は、単純平均の一人あたりの保険料は他市とほぼ同水準に見えます。
- ・しかし、同一の所得であれば本市の保険料は他市と比べて低い状況にあります。

### III.平成16年度から平成20年度の他市との比較の結果

- ・他市では保険料を大幅に上げつつ一般会計から現実的な繰入をすることにより、収支のバランスを保ってきています。
- ・一方、本市国保は保険料率を変えずに一般会計から繰入を行ってきました。
- ・結果的には、保険料を上げてきた他市であっても累積赤字を積んでいます。
- ・ましてや、箕面市は保険料率を変えてこなかったため、他市よりも大きな累積赤字を積んでいます。
- ・このまま赤字が続けば、増え続ける赤字に対応できない状況になります。